

層雲峡ビジターセンター



〔雲ノ平周辺のチングルマ群落・7月〕

大雪山をモチーフにしたポストカードでよく目にするチングルマの群落。大雪山では裾合平の大群落が有名ですが、雲ノ平のチングルマもなかなか見応えがあります。小ぶりの白い花が辺り一面に咲いているのを見ると、思わず感嘆の声を上げてしまうほどです。

チングルマは代表的な高山植物ですが、山に登らない方にとっては馴染みが薄いかもしれません。チングルマは花がきれいということはもちろんですが、花が散った後も楽しめます。花が咲き終わると綿毛のような果実をつけ、この綿毛が放射線状に広がり、ふわりと優しく揺れる姿に心惹かれる人も多くいます。また、光沢のある深緑の葉は光沢を保ったまま鮮やかに紅葉します。花、綿毛、紅葉と三度楽しめるチングルマ。大雪山に見に来ませんか？

(花)



(綿毛)



チングルマ

草状の落葉小低木。枝は地面を這って広がり、マット状になる。葉は羽状複葉で、光沢と鋭い鋸歯があり、長さは0.5~1.5 cm。花は径2.5 cmほどで花弁は5個ある。果実に羽毛状になった雌しべが残る。

【花期】 6~8月中旬

【生育地】 亜高山~高山の湿地やれき地

もっと知りたい！層雲峡

～当センターのスタッフが、皆さんに知ってほしいことや
あまり知られていない層雲峡のあれこれをご紹介します～

銀河の滝・流星の滝の名称の変遷

層雲峡の銀河・流星の滝は日本の滝百選にも選ばれていますが、名称が三度変わりました。

明治5年(1872年)、開拓使の高畑利宜(たかばたけとしよし)は「夫婦滝(みょうとだき)」と言いました。

次に、大正5年(1916年)、上川支庁長東郷重清(とうごうしげきよ)は「雄滝(おだき)」「雌滝(めだき)」と命名します。銀河の滝は落差約120m、流星の滝の落差は約90mで、水量は多く豪快です。どちらが雄滝か雌滝かは諸説あり判然としません。

次は大正12年(1923年)、林学博士新島善直(にいじまよしなお)がこの二つの滝を短歌に詠みました。

絶壁の 岩間をわけてみ空より とどろき落つる 流星の滝

仰ぎみる 銀河の滝は岩しぶき 凍つるがままに 細りてありき

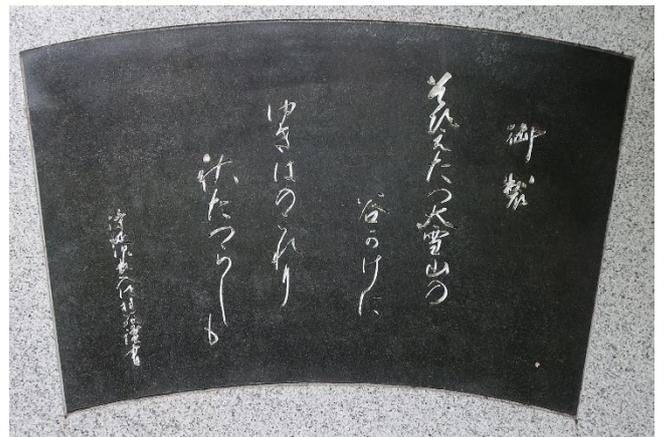
この歌により、今ではすっかり名称が定着しました。

もう一つ、滝の駐車場に設置してある御影石に刻まれているのは、昭和43年(1968年)9月に、昭和天皇が層雲峡に滞在された時の歌です。(開道百年記念式典にご臨席のため来道。この歌を滝の前で詠んだかどうかは不明です。)

そびえたつ大雪山の谷かげに ゆきはのこれり 秋たつらしも

皆さんも一句いかがですか…?

(国井)



大雪山ベビーラッシュ!?



〔今年生まれたキタキツネ〕

6月下旬、雲ノ平でかわいく戯れる子ギツネたちに会いました。9～10月になると子ギツネも大きくなり、巣から離れます。



〔今年生まれたエゾシカ〕

7月中旬、ビジターセンターに可愛い子ジカがやって来ました。建物のすぐそばで餌を探したり、のんびり日なたぼっこしたり…。お客様に「飼っているんですか?」と聞かれるほど居着いていました。

この花の名前は…?



これは、7月～8月上旬にかけて黒岳の北東斜面を彩る花の一つ、「チシマノキンバイソウ」(キンポウゲ科/キンバイソウ属)です。黄色の大きめの花は目をひき、登山者の方が「シナノキンバイに似ている。」と話しているのをよく耳にします。

この花のことを別名で呼ぶ方も多いますが、名前の似ている「チシマキンバイ」は(バラ科/キジムシロ属)で全くの別種です。チシマキンバイは高さ10～30cmほどで、海岸の岩場などに生えています。「ソウ」がつく・つかないで大違いですね。

〔お知らせ〕

環境省アクティブ・レンジャー写真展 北の自然の舞台裏

〔日時〕 8/3(水)～8/31(水)

〔内容〕 アクティブ・レンジャーの皆さんが撮影した“とっておきの瞬間”や仕事の様子を写真で紹介しします。

層雲峡ビジターセンター

電話 01658-9-4400

ウェブサイト <http://sounkyovc.net>

〒078-1701 北海道上川郡上川町字層雲峡